

スポーツには危険が伴いますが、それを恐れず、適切に向き合い対処すれば、生涯役立つ安全能力を身につけられます。

2018-7-16 更新

取り組むことで、確かな安全の能力を身につけることができます。中には、手漕ぎボートで太平洋を横断するといったリスクが高い、と同時に高い安全能力を発揮しなければならないチャレンジをする勇気ある人たちもいます。

1 世界は危険に満ちている Dangerous World

平和で安全な社会であるのに越したことはありませんが、現実には、事故や犯罪、テロ、戦争など、安全ではなく安心できない一面もあります。ちょっとした運命の悪戯や失敗で、命を失うこともあり得ますし、一方で、ちょっとした機転で助かったり、優れた危機管理能力で危機から生還したり、人を助けられるといったこともあります。



個人の力の及ばないこともあります。いざというとき、精一杯、自分や、家族や周囲の人たちを守り、また助ける力を発揮できる存在でありたいものです。そのような能力は、どのようにして身につくのでしょうか。ただ本を読んだり人から話を聞いたりしても、安全の能力が身につかないことは明らかです。



2005年、女性初の太平洋横断で、新記録も樹立したフォンテノワさん (同ホームページより)

2 スポーツ、ボートは危険！？ Is Rowing Danger?

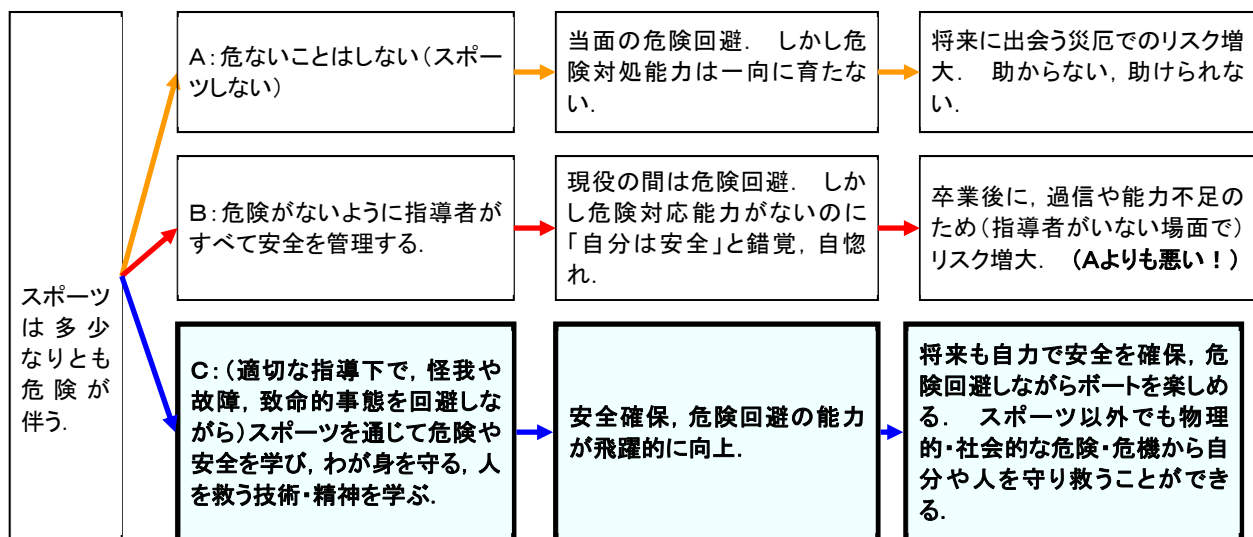
スポーツは、どんなスポーツでも絶対安全などということはなく、中身が違って何かしらの危険、リスクがあります。特に(室内やコート内のスポーツと違い、自然の中で行うスポーツ;ボート、カヌー、ヨット、登山、ダイビングなど)は、自然に触れ合うすばらしさとともに、自然に対峙していることに伴う独特の危険があります。それは、不注意や不真面目さが直接、命にかかわり得る種類の危険だともいえます。しかしだからこそ、それに、まじめに

3 自己責任 Self responsibility

もちろん、ロウイングをはじめるとは、指導者やクラブが、初心者に必要な安全を確保しなければなりません。しかし、一方で、スポーツをするものは誰でも、「自己責任」という大原則があります。

それは、スポーツに取り組むにあたっては、「自らの意思でスポーツに臨み、またその際の危険に対するとリスクは自らが負う。責任を他者に転嫁しない。」ということです。

もちろん、初心者がすぐに自己責任とはいきませんし、たとえばジュニア(未成年)では、指導者が責任を取り続けるということがありますが、それでも、長くスポーツを続ける過程は、同時に、「事故責任が取れる一人前のスポーツ愛好者になる過程である。」とも認識すべきでしょう。



ジュニアでは、指導者が、責任を持って安全を確保しますが、同時に、選手自身が、毎日の活動をそのまま安全訓練と考え、安全確保の「正しい」方法を学ぼうとすることが大切です。それによって、「高度な危険回避、安全確保の能力」が養われていきます。

解しながら、ロウイングに取り組んでほしいと思います。

楽しいだけの、あるいは勝利や強さを求めるだけのロウイングに終わることなく、目立たないけれど、そんなスポーツの目的を理